

# 令和2年 新年のご挨拶



揖斐川町長

富田 和弘

新年あけましておめでとうございます。町民の皆様には、令和2年の新春を健やかに迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

また、日頃は町政に對しまして、格別なご理解とご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

昨年は、天皇陛下(現上皇陛下)が憲政史上初となる生前退位をなされ、また、新元号が事前に発表されるなど、日本中がこれまでにない祝賀ムードのなか、5月1日の改元の日を迎え、新たな令和の時代がスタートいたしました。

町民の皆様も、去りゆく平成の時代を振り返り、惜しみながらも、新たな時代の始まりに、心を踊らせ、新たな気持ちで令和改元の日を迎えられたのではないのでしょうか。

こうした時代の移り変わりにあっても、歴史や財産、人の思いは次の時代へ確実に引き継ぎ受け継がれていきま

す。

本町には揖斐川をはじめとする「清流」や「豊かな森林」など、これまで町民の暮らしを支え、共生してきた、かけがえのない自然資源が多く受け継がれておりますが、この町民の誇りとも言える資源を守り、ふれあい、活用していくことが重要であると考えております。

昨年10月には、皇室三代に渡って揖斐川町の森づくりに携わっていただいた谷汲緑地公園周辺の森を「すめらぎの森」と命名し、改めてその歴史を認識するとともに、次の世代を担う子どもたちへ町の財産と誇りを継承するため、「すめらぎの森感謝祭」を開催いたしました。

また、11月には天皇陛下の即位を祝う献上品として、天皇・皇后両陛下に「さざれ石」を献上いたしました。昭和52年にも当時の春日村から、昭和天皇と香淳皇后、当時皇太子と皇太子

妃でありました、上皇陛下と上皇后陛下にも献上しており、今回の献上によって、皇室へ三代続けて「さざれ石」を献上したこととなります。

こうしたご縁は、岐阜県や地元の皆様をはじめ、関係者のご支援とご協力があったこそ結ばれたご縁であると、深く感謝を申し上げます。この上なく名誉な歴史を重ねることができたことを、大変嬉しく思っております。

一方で、養老鉄道における新車両「7700系」の運行開始や谷汲山華厳寺を含む「西国三十三所観音巡礼」の日本遺産認定、揖斐川町観光協会の設立、新たなコミュニティバスの運行開始など、当町における「新たなスタート」もありました。

特に、1300年つづく日本の終活の旅「西国三十三所観音巡礼」の日本遺産認定につきましては、これまで「西国巡礼地域連携協議会」や「西国三十三所「谷汲山華厳寺」日本遺産登

録推進協議会」が中心となり、様々なPR事業を実施してきたことに加えて、地元関係者の皆様のご理解とご尽力によって認定に至ったものと、心から感謝しております。

今後は、統合された観光協会をはじめ、地域の皆様と一緒に、町内に点在する観光資源の一体的な活用を推進するとともに、周辺市町と連携をしながら広域的に周遊できる観光ルート形成や国内外に向けて幅広く情報発信を行うなど、観光振興の促進とインバウンドを含めた観光誘客の向上に努めてまいります。

また、昨年10月から運行を開始しましたコミュニティバスにつきましては、主に通学を目的とした路線定期型の「ふれあいバス」と、地区集会所や医療機関、スーパーなどを結び、利用者のニーズに対応した予約制の乗合いバスの「はなもバス」の併用による、運行形態としてスタートいたしました。



個人の移動に対するニーズは多種多様でありますので、全ての方が満足する使い勝手のよい交通手段には至っておりませんが、社会情勢や住民の皆様からのご意見を反映しながら、より利便性の高い交通手段となるよう、見直しを行ってまいりたいと考えております。

揖斐川町を取り巻く環境は、少子高齢化や人口減少、これに関連する過疎化の進展や、各種産業の担い手不足、地域活力の低下など、厳しい状況が続いております。

このような状況の時こそ、様々な地域課題に対して、行政だけでなく町民

の皆様と一緒に知恵を出し、共に取り組み、行動していくことが重要であります。

揖斐川町が目指すまちの将来像「自然健康のまち いびがわ」の実現のため、本年も町民の皆様と一緒に、未来へつなぐまちづくりに取り組んで

まいりたいと考えておりますので、町政に対する変わらぬご支援と、ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。同時に、本年も皆様にとって、良い1年でありますよう、心よりお祈り申し上げます。新年のご挨拶といたします。



## 揖斐川町議会議長

# 杉本 一 義

新年明けましておめでとうございます。

町民の皆様におかれましては、輝かしい令和2年の新春をお健やかに迎えることと心からお喜び申し上げますとともに、日頃より町政発展のため、多大なるご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、昨年は、新たな令和の時代の幕開けとなりました。本町においても令和への改元と天皇陛下下の即位をお祝いするとともに、広大な揖斐川町の森林の保全を目的として皇室三代をお迎えした全国育樹祭会場の谷汲緑地公園において、揖斐すめらぎの森感謝祭を

開催しました。今後も、揖斐川上流域に課せられた使命として100年先まで持続可能な森づくりを進めてまいります。

また、本町の観光の拠点であります谷汲山華厳寺が、文化庁より「1300年つづく日本の終活の旅」西国三十三所観音巡礼」の一つとして日本遺産に認定されました。この認定を契機とし、より一層のPR活動に努め、更なる交流人口が増加することを期待してまいります。

昨年10月からは、より身近で利用しやすい交通網の整備を目指して、従来の路線定期型バスと、利便性の高い予

約型デマンドバスを組み合わせたコミュニティバスの運行が開始されました。さらに、生涯学習の拠点施設として新揖斐川図書館の建設着工、冠山峠道路（仮称）鉄嶺トンネル整備など、様々な事業や施策が展開されました。

一方、国内に目を向けますと、台風15号、および、台風19号による洪水などにより、関東や東北地方では甚大な被害が発生しました。被害に見舞われた皆様に心からお見舞い申し上げます。揖斐川町においては、大きな被害は発生しませんでした。このような大規模な自然災害は、毎年のように発生しており、これらの災害を目的の当りにしますと、ますます防災力強化の必要性を感じるところです。今後、さらに減災に向けた「自助」・「共助」・「公助」の体制を強化し、実効性の高い地域防災力の向上が求められています。

近年は、人口減少、少子高齢化の急速な進行により、住民に身近な存在で

ある議会とその議員の果たすべき役割や責務は、ますます増大してきています。

議会の役割は、予算案などの議決のみではなく、地域の実情、住民の皆様を行政に反映させることが責務であり、そのために各種委員会を設置し活動してまいります。

今後も、町民の代表である議会としましては、執行機関とお互いに切磋琢磨しながら、まちづくりの主役は町民の皆様であることを第一に、揖斐川町第二次総合計画に定めるまちの将来像「自然健康のまち いびがわ」の実現に向けて、鋭意努力してまいりたいと考えています。

年頭に当たり、皆様のますますのご多幸を心からお祈り申し上げますとともに、町議会への一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。新年のご挨拶といたします。